

# 土佐町の給与・定員管理等について

## 1 総括

### (1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (28年12月31日)	歳 出 額 A	実質収支	人 件 費 B	人件費率 B / A	(参考) 27年度の人件費率
28年度	人 4,028	千円 3,459,023	千円 26,948	千円 677,922	% 19.6	% 17.0

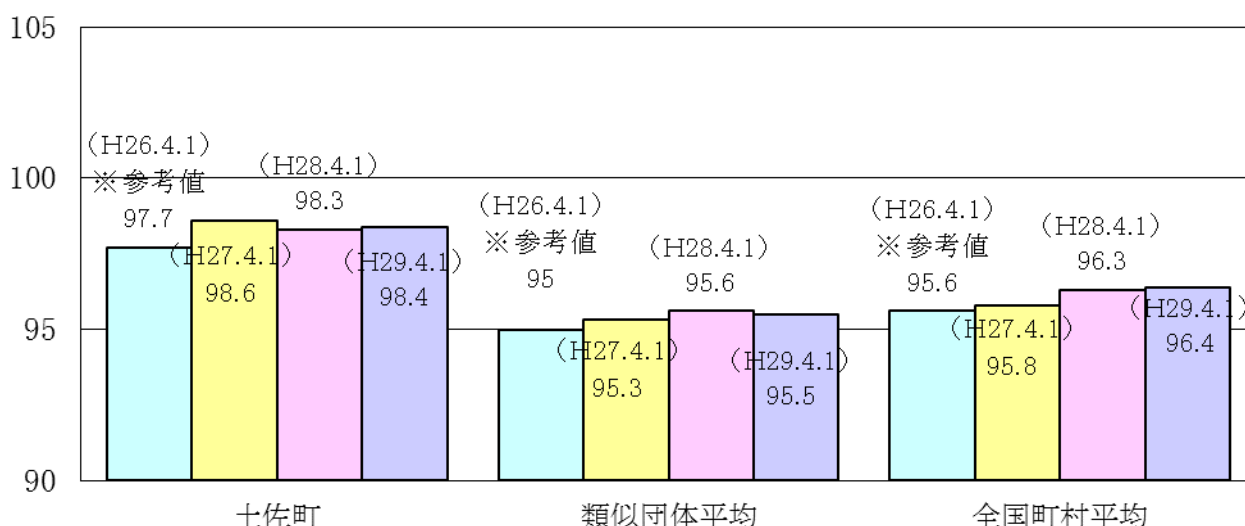
### (2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区 分	職員数 A	給 与 費			
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B
28年度	人 77	千円 274,217	千円 28,479	千円 105,977	千円 408,673

(参考)一人当たり 給与費 B / A	(参考)類似団体 平均一人当たり 給与費
千円 5,307	千円 5,433

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。  
 2 職員数は、28年4月1日現在の人数である。  
 3 給与費については、任期付短時間勤務職員（再任用職員（短時間勤務））の給与費が含まれており、職員数には当該職員を含んでいない。

### (3) ラスパイレス指数の状況



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。  
 2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

(4) 給与改定の状況

土佐町は人事委員会を設置していない

①月例給

区分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A - B	勧告 (改定率)		
29年度	円 -	円 -	円 ( - %)	% -	% -	% -

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパ  
イレス比較した平均給与月額である。

②特別給(期末・勤勉手当)

区分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A - B	勧告 (改定月数)		
29年度	月 -	月 -	月 -	月 -	月 -	月 -

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の  
支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

(5) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手  
当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

① 給料表の見直し

[ 実施 ]

国に準拠

②地域手当の見直し

実施内容（国基準における場合の支給割合及び当該団体の支給割合）

該当なし（本町においては地域手当の制度ない）

③その他の見直し内容

扶養手当について、国と同様に見直しを実施

## 2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

### (1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（29年4月1日現在）

#### ①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
土佐町	40.6歳	303,213円	329,172円	318,309円
高知県	43.3歳	322,451円	386,192円	343,770円
国	43.6歳	330,531円	—	410,719円
類似団体	40.8歳	295,601円	334,798円	324,655円

#### ②技能労務職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
土佐町	51.3歳	358,133円	373,881円	366,800円
うち調理師	51.3歳	358,133円	373,881円	366,800円
高知県	56.5歳	306,808円	334,088円	318,183円
国	50.6歳	286,833円	—	328,360円
類似団体	49.1歳	288,137円	312,465円	304,412円

(注) 1 「平均給料月額」とは、29年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース(＝時間外勤務手当等を除いたもの)で算出している。

(2) 職員の初任給の状況（29年4月1日現在）

区	分	土佐町	高知県	国
一般行政職	大学卒	178,200円	181,900円	178,200円
	高校卒	146,100円	148,200円	146,100円
技能労務職	高校卒	137,500円	150,300円	—
	中学卒	129,500円	137,100円	—

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（29年4月1日現在）

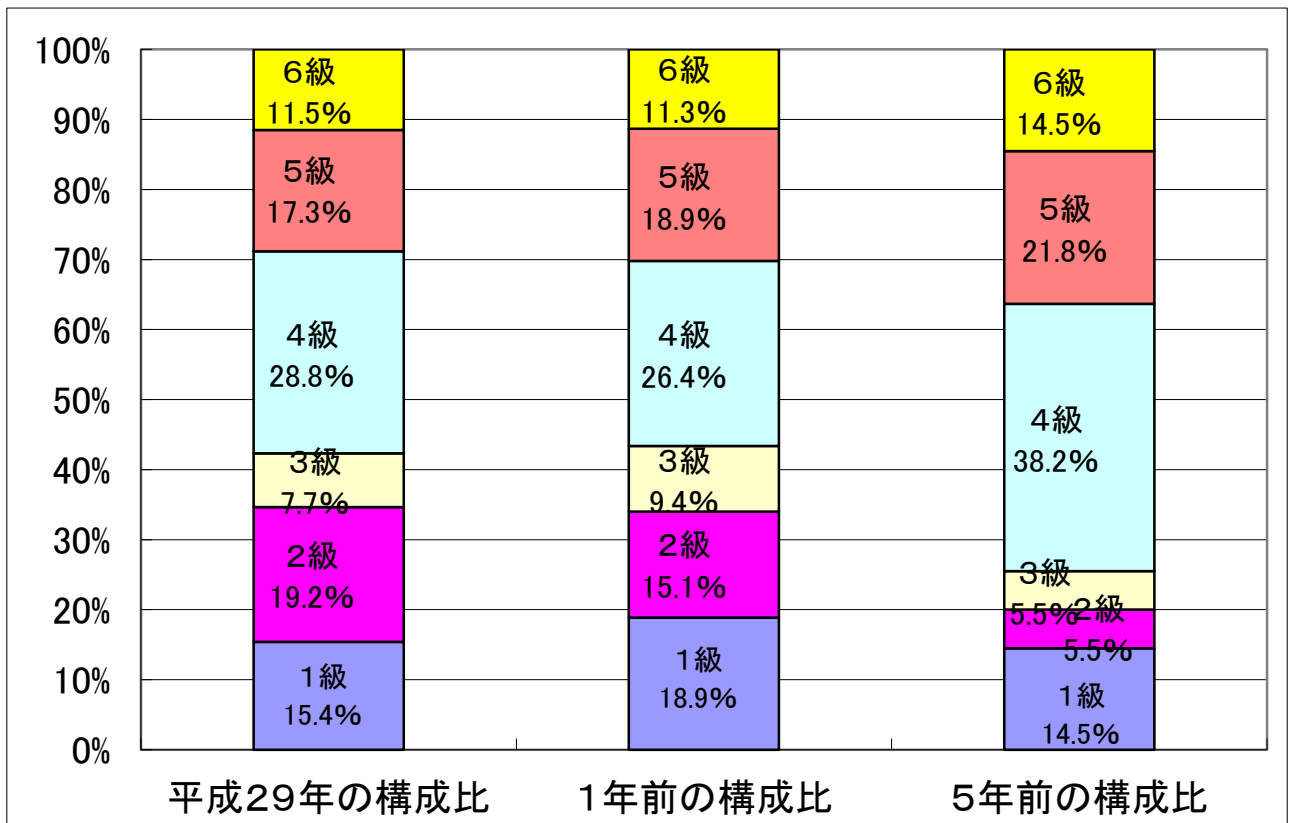
区	分	経験年数10年以上 15年未満	経験年数20年以上 25年未満	経験年数25年以上 30年未満
一般行政職	大学卒	— 円	361,600円	407,600円
	高校卒	219,600円	328,700円	367,400円
技能労務職	高校卒	— 円	— 円	348,500円
	中学卒	— 円	— 円	— 円

### 3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（29年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の 給料月額	最高号給の 給料月額
1級	主事補、主事の職務 定型的な業務を行う職務	10人	15.4%	141,600円	246,600円
2級	主事の職務 特に高度の知識又は経験を 必要とする業務を行う 職務	8人	19.2%	191,700円	303,400円
3級	主幹の職務	5人	7.7%	227,900円	349,200円
4級	係長・主任の職務	14人	28.8%	261,100円	380,200円
5級	課長補佐、次長、園長、副 園長、副参事の職務	10人	17.3%	287,100円	392,200円
6級	課長、会計管理者、議会事 務局長、参事の職務	6人	11.5%	317,700円	409,400円

- (注) 1 土佐町の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。  
2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(注) 平成 18 年に 8 級制から 6 級制に変更している。(旧給料表の 1 級及び 2 級並びに 4 級及び 5 級をそれぞれ統合)

(2) 昇給への人事評価の活用状況 (土佐町)

平成 29 年 4 月 2 日から平成 30 年 4 月 1 日 までにおける運用	管理職員		一般職員	
	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分
イ. 人事評価を活用している				
活用している昇給区分				
上位、標準、下位の区分	○		○	
上位、標準の区分				
標準、下位の区分				
標準の区分のみ (一律)				
ロ. 人事評価を実施していない				
活用予定時期				

## 4 職員の手当の状況

### (1) 期末手当・勤勉手当

土佐町	高知県	国
1人当たりの平均支給額（28年度） 1,335千円	1人当たりの平均支給額（28年度） 1,568千円	—
(28年度支給割合) 期末手当 2.55月分 勤勉手当 1.50月分 (1.375)月分 (0.75)月分	(28年度支給割合) 期末手当 2.55月分 勤勉手当 1.50月分 (1.375)月分 (0.75)月分	(28年度支給割合) 期末手当 2.60月分 勤勉手当 1.70月分 (1.45)月分 (0.85)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算5%～15%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算5%～20% 管理職加算10%～20%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算5%～20% 管理職加算10%～25%

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

#### ○勤勉手当への人事評価の活用状況（一般行政職）（土佐町）

平成29年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	○		○	
活用している成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率
上位、標準、下位の成績率	○		○	
上位、標準の成績率				
標準、下位の成績率				
標準の成績率のみ（一律）				
ロ. 人事評価を活用していない				
活用予定時期				

### (2) 退職手当（28年4月1日現在）

土佐町	国
(支給率) 自己都合 応募認定・定年 勤続20年 20.445月分 25.55625月分 勤続25年 29.145月分 34.5825月分 勤続35年 41.325月分 49.59月分 最高限度額 49.590月分 49.59月分 その他の加算措置 定年前早期退職特例措置（2～20%加算） 1人当たり平均支給額 22,974千円	(支給率) 自己都合 応募認定・定年 勤続20年 20.445月分 25.55625月分 勤続25年 29.145月分 34.5825月分 勤続35年 41.325月分 49.59月分 最高限度額 49.59月分 49.59月分 その他の加算措置 定年前早期退職特例措置（2～45%加算）

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、28年度に退職した職員に支給された平均額である。

### (3) 地域手当 (29年4月1日現在)

支給実績 (28年度決算)		— 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (27年度決算)		— 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度 (支給率)
—	— %	— 人	— %
地域手当補正後ラスパイレス指数 (ラスパイレス指数)			— (98.4)

(注) 地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレス指数。

(補正前のラスパイレス指数 × (1 + 当該団体の地域手当支給率) / (1 + 国の指定基準に基づく地域手当支給率) により算出。)

### (4) 特殊勤務手当 (29年4月1日現在)

支給実績 (28年度決算)		4千円		
支給職員1人当たり平均支給年額 (28年度決算)		290円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (28年度)		16.0%		
手当の種類 (手当数)				
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (27年度決算)	左記職員に対する 支給単価
防疫等作業手当	感染症防疫作業に従事する職員	感染症患者若しくは感染症の疑いのある患者の救護 感染症菌の附着した物件の処理作業	0千円	日額290円

### (5) 時間外勤務手当

支給実績 (27年度決算)	16,968千円
職員1人当たり平均支給年額 (27年度決算)	226千円
支給実績 (28年度決算)	10,179千円
職員1人当たり平均支給年額 (28年度決算)	136千円

(注) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績 (○年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数 (管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。) であり、短時間勤務職員を含む。

(6) その他の手当 (29年4月1日現在)

手 当 名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (28年度決算)	支給職員1人 当たり 平均支給年額 (28年度決算)
扶養手当	配偶者(13,000円) 配偶者以外の扶養親族1人につき(6,500円) 但し配偶者のない場合の1人目のみ(11,000円) 16~22歳の子1人につき加算額(5,000円)	同		7,555千円	209,861円
住居手当	借家 基礎控除額(12,000円) 最高支給限度額(27,000円)	同		1,969千円	164,083円
通勤手当	1交通機関利用者 6ヶ月定期券等の価格による一括支給 最高限度額(55,000円) 2交通用具利用者 通勤に応じて(2,000円~31,600円)	同		3,023千円	53,982円
管理職手当	課長・室長・議会事務局長・参事の職にある職員(22,000円)	異		1,892千円	236,500円

**5 特別職の報酬等の状況 (29年4月1日現在)**

区 分		給 料 月 額 等	
給 料	市 区 町 村 長	675,000円 (円)	(参考) 類似団体における最高/最低額 820,000円 / 492,000円
	副 市 町 村 長	580,000円 (円)	667,000円 / 443,000円
報 酬	議 長	263,000円 (円)	316,000円 / 176,000円
	副 議 長	213,000円 (円)	251,000円 / 122,400円
	議 員	190,000円 (円)	230,000円 / 103,000円
期 末 手 当	市 区 町 村 長 副 市 町 村 長	(28年度支給割合) 2.55月分	
	議 長 副 議 長 議 員	(28年度支給割合) 2.55月分	
退 職 手 当	市 区 町 村 長 副 市 町 村 長	(算定方式) 給料月額×5×在職年数 給料月額×3×在職年数	(1期の手当額) 13,500千円 6,960千円
	備 考	(支給時期) 退職時(任期毎) 退職時(任期毎)	



- (注) 1 給料及び報酬の( )内は、減額措置を行う前の金額である。  
 2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

## 6 職員数の状況

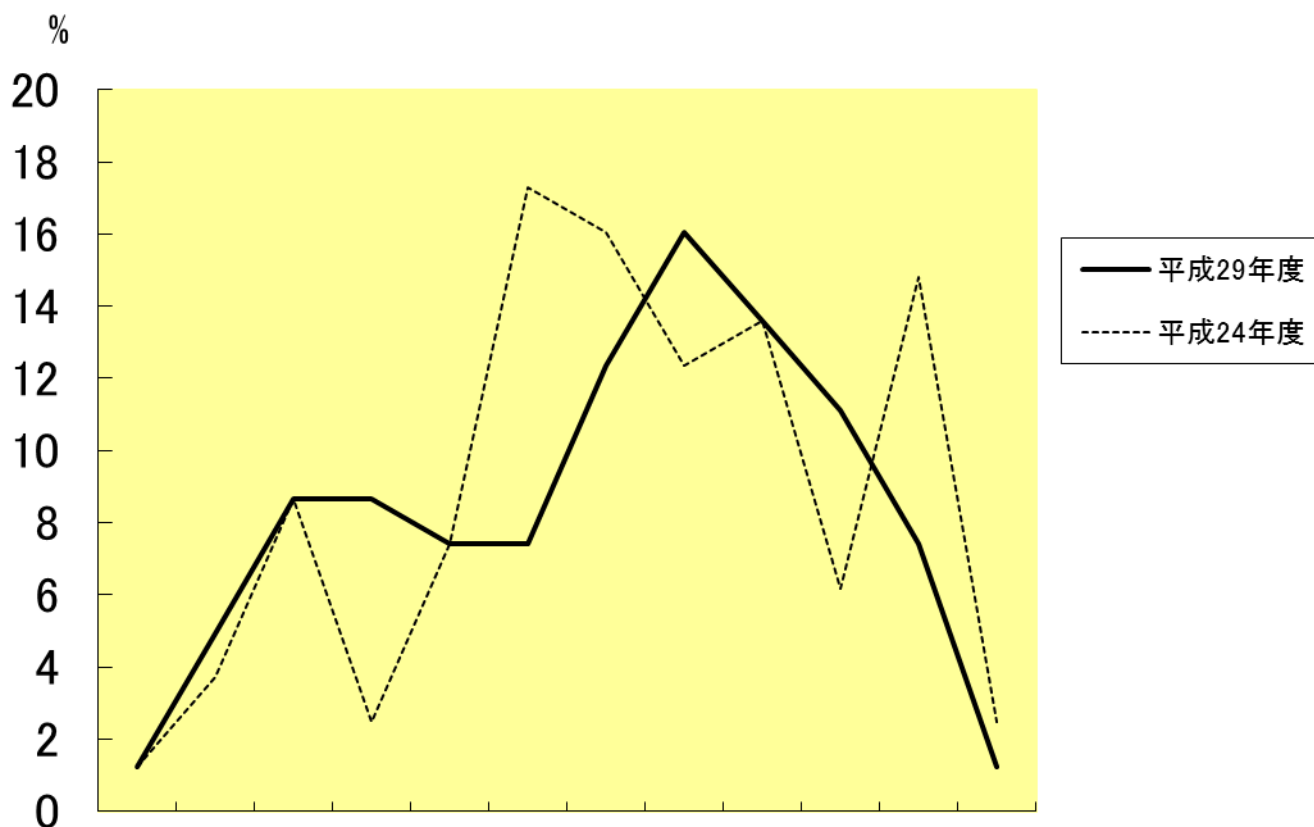
### (1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在)

部 門	区 分		職 員 数		対 前 年 増 減 数	主 な 増 減 理 由
			平成28年	平成29年		
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	2	2	0	県への出向解除後に異動したことによる減 県へ2名出向したことにより1名増 育児休業後の復職者の異動による減
		総 務	19	19	0	
		税 務	6	6	0	
		農 林 水 産	6	6	0	
		商 工	4	3	-1	
		土 木	4	5	1	
		民 政	26	25	-1	
		衛 生	5	5	0	
	計	72	71	-1	<参考> 人口1万人当たり職員数 176.27人 (類似団体の人口1万人当たりの職員数 186.33人)	
		教育部門	5	5	0	
	消防部門	0	0	0		
	小 計	77	76	-1	<参考> 人口1万人当たり職員数 188.68人 (類似団体の人口1万人当たりの職員数 219.44人)	
公 営 企 業 計 等 部 門	水 道	下 水	1	1	0	
		そ の 他	3	3	0	
	小 計	5	5	0		
合 計		82	81	-1	<参考> 人口1万人当たり職員数 201.09人	
		[ 97 ]	[ 97 ]	[ 0 ]		

- (注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。  
 2 [ ]内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況（29年4月1日現在）



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	1人	4人	7人	7人	6人	6人	10人	13人	11人	9人	6人	1人	81人

(3) 職員数の推移

(単位：人・%)

部門別 \ 年度	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	過去5年間の増減数(率)
一般行政	74	73	74	73	72	71	△3(△4.05%)
教育	6	7	6	5	5	5	△1(△14.29%)
普通会計計	80	80	80	78	77	76	△4(△4.94%)
公営企業等会計計	6	5	6	5	5	5	△1(△16.67%)
総合計	86	85	86	83	82	81	△5(△5.75%)

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。

2 合併した団体にあつては、合併前の年については合併前の旧団体の合計職員数。